



内閣官房 内閣情報調査室

平成28年度採用者に、当室を志望した理由や官庁訪問の様子等について語っていただきました。

1年目
職員より

「情報」を通じた社会貢献

■ 内調を知ったきっかけ

大学で公的機関の役割について学んだことがきっかけで、公共性の高い仕事に関心を持ち、国家公務員を就職先の一つとして考えるようになりました。具体的な志望先が定まらず悩んでいた時に、室の説明会に参加し、室の特徴である官邸との近さと「情報」を通じて幅広い分野に携われることに惹かれました。業務説明会では、人事担当の方が終始笑顔で時折冗談を交えつつ説明をしてくださり、和気藹々とした雰囲気を感じました。その印象は入室後も変わらず、質問しやすい雰囲気の中、暖かい上司、先輩のご指導の下、日々仕事に励んでいます。

■ 学生時代に打ち込んだ事

学生時代は、学生シンクタンクでの発表を目標とした、ゼミ論文の作成に力を入れました。食料安全保障をテーマに、戦後長きにわたり日本農業の課題となっている農地集積について、統計データや社団法人等へのアンケート調査で収集した情報を元に、定性的、定量的にその要因を分析しました。

アンケート調査で、同じ趣旨の質問でも、言葉の言い回しによって全く異なる回答結果が得られたことから、現状を正確に把握することの難しさを実感しました。調査の結果、新たな発見が得られ、この一連の作業がとても面白く感じました。

■ 当室を最終的に志望した理由

学生時代に打ち込んだゼミ論文の作成を通じて、政策決定・評価に対する「情報」の重要性を感じ、国家の中核で「情報」という側面から社会に貢献できる業務に魅力を感じました。内調以外にも「情報」を専門とする機関がありますが、国内から国際、経済まで、幅広い分野に携わることができるのは、大きな魅力ではないでしょうか。また、作成した資料が官邸、特に総理大臣の目に留まる機会があるというのは、非常に大きなやりがいとなると意気込みました。

■ 公務員試験、面接対策について

公務員試験は、筆記試験を通過しないと面接に臨めませんので、まずは筆記試験の勉強を頑張りました。また、公務員試験に加えて金融機関やマスコミ等の民間企業の面接も受けていました。面接先を官庁もしくは民間企業どちらかに絞った方が効率的であるとは思いますが、他業界の説明会への参加やOB訪問国家公務員と民間企業の双方を知ることによって、それぞれの仕事の違いについて理解を深めることができました。非効率に感じるかもしれませんが、志望理由を固めるよい機会になったと思います。

■ 当室で将来的に携わりたい業務

明確に定まっておりませんが、将来的には、国際分野や経済分野に携わりたいと考えています。現在、担当している有識者からの提言を取りまとめる仕事を通して、景気や商品価格の変化といった経済状況の変化が、各国の政策決定の動機となることが多いと感じました。日頃のニュースや有識者の話を通して、情勢の機微をキャッチしていくのは非常に面白いです。今後も、アンテナを高く保ち、視野を広げていきたいです。

■ 後輩にメッセージ

このページをご覧になっている方の中には、偶然このページに辿り着いた方も、内調を志望してご覧になっている方もいらっしゃると思います。一年前の私も皆さんと同じように、就職先に迷い、不安と期待に挟まれながら就職活動をしていました。室の職員がどのような仕事をしているか、なかなかイメージしにくいかもしれませんが、パンフレットに掲載されている職員からのメッセージは、一日の業務の流れや職場の雰囲気想像するきっかけにはなるのではないのでしょうか。就職活動は、人によっては辛いものかもしれませんが、広い視野を持って、後悔の残らないよう頑張ってください。

ずっと勉強し続けられる場所

■ 内調を知ったきっかけ

霞ヶ関OPENゼミに参加したことがきっかけです。多くの参加省庁の名前が並ぶ中で、内閣情報調査室についてはどのような業務を行っているのかが全く知らなかったため、興味本位で業務説明会へ参加しました。

■ 当室を最終的に志望した理由

大学で地域政治を中心に学び、そこで得たことを少しでも多く活かせる仕事をしたいと考えていました。

情報を収集・分析するという仕事には、学術面はもちろん、多面的な知識や技術が必要とされるので、自分も仕事に携わりながらそうしたものを一つずつ勉強し、増やしていきたいと考えて内閣情報調査室を志望しました。

また、業務説明会に参加した際に、何人もの職員の方が内閣情報調査室は「ずっと勉強し続けられる環境」とお話されていたのを聞き、私もそうした環境で仕事に携わりたいと半ば直感的に感じたことを覚えています。

■ 内調の説明会や官庁訪問で印象的だった人について

初めは「内閣官房内閣情報調査室」という名前のイメージから、堅くて怖そうな職員の方々を想像していました。実際に説明会に参加し、官庁訪問をしてみると、こちらの緊張をほぐすように柔らかくフレンドリーにお話して下さる方が多く、驚くと同時に安心したのを覚えています。

官庁訪問では、面接に苦手意識がありとても緊張していました。知らない知識を問われたら・・・と不安を感じていましたが、面接というよりも会話のような話しやすい雰囲気を作りながら、知識面よりも、私自身が頑張ったことや好きなことを聞いて下さる職員の方が多かったです。

■ 内調という職場の雰囲気

一人ひとりが自分の個性を持ち、仕事に対してやりがいを持って働いている職員が多いのではないかと感じます。

また、仕事中は真剣な雰囲気ですが、お昼に誘ってくださったり、廊下で会ったときに声をかけてくださったりなど、親切な方が多いです。

■ 学生時代に頑張ったこと

ゼミでの研究に力を入れました。他大学との合同ゼミでの発表や卒業論文の執筆には苦労も多くありましたが、文献を読み込み、得られたデータから何が分かるかに頭を捻らせた経験は、今後活かすことが出来る貴重な経験であったと考えています。サークル活動をはじめ、学生時代に自分が興味・関心を持てることを何か一つ作り、一生懸命に取り組んだ経験があると、就職活動においても自分なりの軸を持って話すことが出来るのではないかと思います。

■ 当室で将来的に携わりたい業務

現在は、様々な業務を経験することで知見を広めながら、将来的には国際部門で地域的な情報収集・分析に携わりたいと考えています。

■ 公務員試験、面接の対策について

筆記試験対策に関しては、前年の11月から予備校に通い始めました。科目を絞るのが不安だったので、自分が知らない知識を勉強することを楽しむ気持ちで、ほぼ全ての教科を一通り取り組みました。

面接に関しては、志望動機・学生時代に頑張ったこと・自分がやりたいこと等、エントリーシートの項目に頻繁に挙がるような内容に関して、しっかり整理しておくが良いと思います。例えば、自分が頑張ったことに関して「なぜそれをやろうと思ったのか→どのような点で頑張ったのか→頑張ったことで得たものは何か→それがどう今に繋がっているか」までを一つの流れで考え、それが志望動機ややりたいことにも繋がると、面接での質問にも一貫性を持ちながら答えられるのではないかと思います。

■ 後輩へメッセージ

私自身、就職活動中は「自分はどのような人間なのか」、「どのような就職先が自分に合っているのか」等、自問の連続でした。

公務員試験は特に、筆記から面接まで試される場面が何度もあり、その中で不安に感じることや心が折れそうになることも多々あると思います。下手に自分を良く見せようと嘘を上塗りしていくのではなく、自分の人間性や仕事に対する率直な思いを大切に、それを面接でも伝えていただければ良いのではないかと思います。

是非、複数の業務説明会に足を運び、自分がこの先何十年も働いていくことを想像しながら志望先を選んでいただきたいと思いますし、そこが内閣情報調査室であるならば、一層嬉しいです。皆様の就職活動が上手くいきますようお祈りしています。